

I've got six pence

T2 更家 幸雄

Sea Shanty(水夫の労働歌)とは、帆船時代の水夫たちの労働歌、帆の揚げ下げや、アンカー(碇)の巻き上げなどの時、みんなで力を合わせて綱を引いたり、巻上機を撒いたりする必要があったので、フォークソングなどを歌いながらタイミングを合わせた。それが、シーシャンティーとなって、歌い継がれてきました。20世紀に入り、蒸気船が発達して、少しずつ実用的価値はなくなっていきました。

昴が、設立当初はこの歌を原語(英語の歌詞)で練習していましたが、福永陽一郎さんの編曲に、かつて団に在籍されていた、古莊雄二さんが、訳詞をつけたものです。

★ The de Paur's Infantry Chorus "Choral Caravan
1952 Columbia

戦後日本のグリークラブが好んで取り上げた曲ですが、デ・ポーア合唱団の日本公演を機に、日本に広まりました。

S29年のパンフレットにはデ・ポーア編曲となっています。また、アメリカや日本でも、スカウトで歌われています。

歌詞の中に出てくる6ペンスコインは、英国で1971年まで通用していた硬貨で、1ポンド=20シリング、1シリング=12ペンスでした。(1ポンド=240ペンス)

1971年2月から10進法に変更、シリングは消滅、1ポンドは100ペンスとなりました。

ただしペンスは複数形で、単数はペニー、複数でペンス、2ペンスはタッペンズ(Tuppence)と発音する(メーポピンズに、"2ペンスを鳩に"という曲があるが、これも Feed the birds, tuppence a bag と歌います)

英語の歌詞では、6ペンスを給料でもらって、2ペンスを使って、2ペンス貸して、2ペンスを母ちゃんに送る。とでてくる1番から最後には、一文もなくなって、母ちゃんに何も送れなくなる事に・・・。

実際の6ペンスコインは、直径12mm厚さ1mmほどに小さなもので、多少価値の高かった1900年頃は、1ペンス200円ほど、ですので6ペンスは1200円ぐらいの週給でしょうか？

一方、それだけ小さいからとして、マザーグースの歌から、ラッキーアイテムとして、6ペンスコインは、花嫁の左の靴に入れる風習もあるようですが、ここはやはり男声合唱の魅力を前面に歌いたいと思います。

最後にI've got Sixpence と叫ぶお役目が来ました。頑張って大きな声で叫びたいと思います。

2026年度 国内コンサート

日程：7月31日(金) 会場：ねむかホール

出演申込：5月17日までに

2026年度 昴総会

日程：8月31日(月) 会場：ねむかホール

13:00～ 総会

15:00～ 特別練習

17:00～ 交流会



合発に向けた思い

Br 向井 勝弘

新年度を迎えましたが、南部合発まで数週間と迫ってきました。

8月にはLICで大阪大会、11月には長野で全国大会、さらに第16回コンサートも予定され、充実した一年になりそうです。

近年の合発受賞は、京都大会の銅賞受賞を最後に、受賞を逃してきました。

昨年の神戸での全国大会は、僅差で受賞できず残念でしたが、私にとっては、今まで参加した大会(2019年～)の中で、一番手ごたえを感じました。順位を気にすることなく、達成感がありました。そう感じた団員の方も多かったのではないのでしょうか。

団員は減り、平均年齢は高くなり、体力面でも不安な状況ですが、人生のまた合唱活動の先輩として、心に残る・気持ちを込めた演奏で「歌う楽しさ」を伝え、また感じたいものです。

伝え感じれば、自然と良い結果がついてくると思います。

そのためには、指揮者から細かく指導していただいた内容を、今一度見直して本番に臨みたいと思っています。

「リメンバー」資料 1

(2013. 10、佐藤しのぶCD発売)

■平和の願い、いつか世界に

声楽家・佐藤しのぶさん

ずっと平和の歌に携わりたいと思っていました。それが、なかにし礼さんに作詞をお願いした「リメンバー」です。

平和への思いが強くなったきっかけは、小学5年の時に家族旅行で行った広島平和記念資料館。亡くなった子を抱く母の写真がありました。その母の目は絶望に染まっていた。今も忘れられません。

18年前には、ベラルーシに行きました。原発事故が起きたチェルノブイリ(旧ソ連、現ウクライナ)の北側にある国です。被曝した子どもたちの療養所で歌った後、所長さんに聞きました。「歌より医療を充実させたほうが子どもを救えるのではないのでしょうか」と。すると、こんな答えが返ってきました。「生の演奏は人間の精神に強く訴えかけてきます。子どもたちに生きる希望と力を与えるのです」

私にも歌を通して果たすべき使命があるのかもしれない——。そんな気持ちが高まった瞬間でした。ところが、3年前。日本でも原発事故が起きてしまいました。核はひとたび過ちが起きれば、きれいな水や土、命を根こそぎ奪う。人間には到底扱いきれないものなんです。

いま、日本は集団的自衛権を始めとしたさまざまな議論が起きている。戦争が近づいているようにも感じますが、私たちは戦争の悲惨さを十分に学んできたはずで。

8月の長崎でのシンポジウムでは、戦争のない平和な未来を願って歌います。そしていつか、リメンバーの歌詞が世界中の言語に翻訳され、たくさんの方が歌ってくれるようになってほしい。

(朝日新聞 2014年6月8日掲載)

さとう・しのぶ 1958年、東京都生まれ。その後、高槻市に転居。大阪音大付属高校、国立音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所を首席で卒業後、イタリア・ミラノに留学。「椿姫」の主役で注目を集め、87～90年にはNHK紅白歌合戦に出場。2019年死去(61歳)。